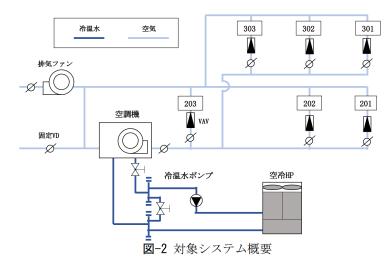
Energy saving quantification/control optimization 一省エネ効果・最適制御

Energy saving effect on VAV・VWV・CO2 concentration control – VAV・VWV・CO2濃度制御の省工ネ効果



- VAV/CAV制御とVWV/CWV制御の組み合わせにより各制御の省工ネ性と室温制御性を評価した
- ファンやダンパなどの制御状態を可能な限り詳細に 算出することで、負荷変動時の室温変化やエネル ギー消費の変化を説明可能とした
- 負荷の大きい時期に合わせて調整したパラメータでは他の時期に制御性が悪化する結果が得られたことから、月ごとにパラメータを再調整することで制御性が改善される可能性が確認された

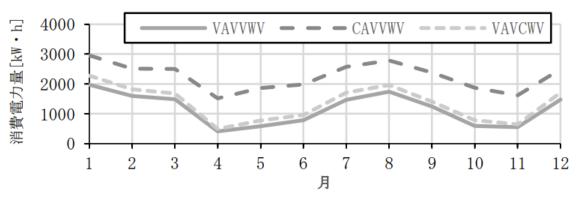


図-10 各月の総消費電力量

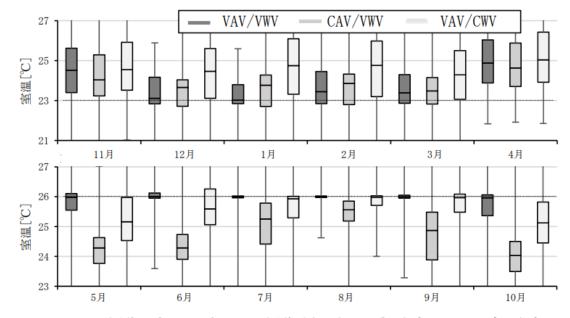
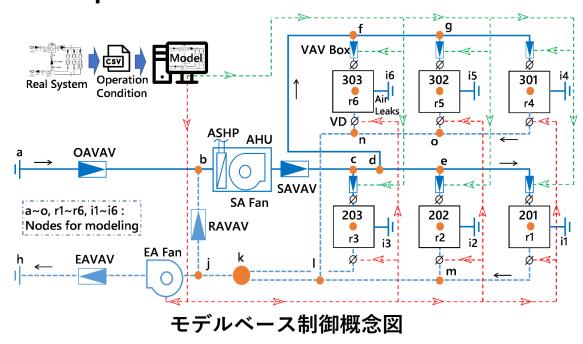


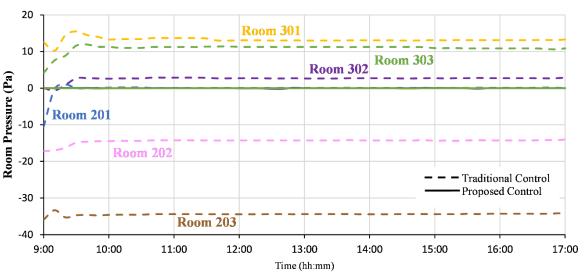
図-11 制御ごとの室温の制御性 上:暖房時 下:冷房時

Energy saving quantification/control optimization 一省エネ効果・最適制御

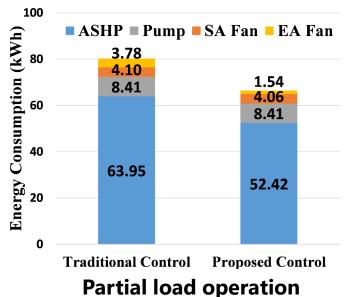
Room pressure neutralization - 室圧中立化制御



- 検証済みの6室VAVシステムモデル
 - ✓ 風量、室圧、エネルギー消費量をシミュレーション
 - ✓ 実測データと良い一致を実証
- モデルベースの静圧リセット制御戦略
 - ✓ 室圧を中和し、所望の室内空気温度を維持することが 可能
 - ✓ 夏の全負荷運転条件と部分負荷運転条件の両方で評価



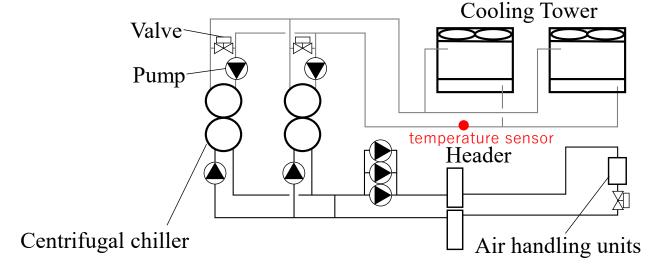
Full load operation



Automated fault detection and diagnosis一不具合検知·診断

Dataset generation – データセット作成

Example: Cooling tower condenser water outlet temperature sensor bias (+2 °C)



- Phyvacは、HVACシステムのシミュレーションを柔軟に構築するために使用でき、不具合条件を必要に応じて組み込むことができる。
- ・冷却塔冷却水出口温度センサーのバイアスを熱源システムの不具合としてモデル化し、結果を分析した。

```
✓ LBNL FDDデータセットとも比較し、妥当性を検証した。
```

```
# Define sensor error bias
dt CT tout = 2.0
# Define classes for cooling tower and cooling tower fan
PID control
CT = pv.CoolingTower(kr=0.1, ua=143000)
PID CT = pv.PID(kp=0.005, ti=600, kg=-1, a max=0.498)
# Define calculation formula for cooling tower condenser
water outlet temperature setpoint
def cal_sv_CT_tout(t_wb, sv_min=11.0):
    sv = t wb + 4
    if sv < sv min:
        sv = sv min
    return sv
# Calculate at each time step
For i in range(24*60*365):
    # Calculate the setpoint
    CT_tout_sv = cal_sv_CT_tout(t_wb=t_wb)
# Control Cooling tower fan speed based on biased
condenser water temperature
```

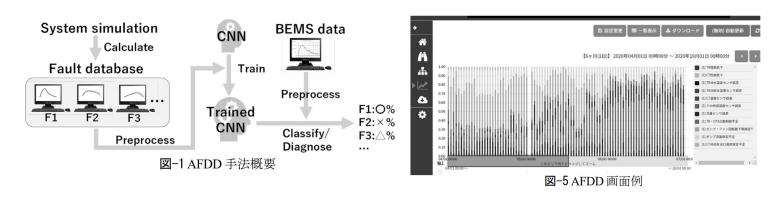
Modified code

	Chiller	Primary pump	Condenser pump	Cooling tower	Secondary pump	Total
Unfaulted	927	45	127	104	148	1352
Cooling tower bias+2	913	45	127	131	148	1364
Impact ratio	-1.6%	0.0%	0.1%	25.2%	0.0%	0.9%

Yearly power consumption by the fault

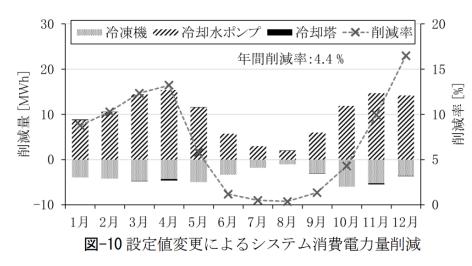
Automated fault detection and diagnosis一不具合検知·診断

AFDD using deep learning – 深層学習による自動不具合検知・診断



- Phyvacで作成した不具合データセットを畳み込みニューラルネットワークに与えて自動不具合検知・診断器を構築
- 学習済み診断器でBEMSデータを診断することで、季節によって (負荷条件が変化すると)、発現する不具合の特徴が変化することが可視化
- 診断結果に基づく不具合修復の効果もphyvacにより算出

 ✓ 改善前(ベースライン)と改善後の両方を算出・比較
- 転移学習の適用により、不具合データセットの作成効率化も期待



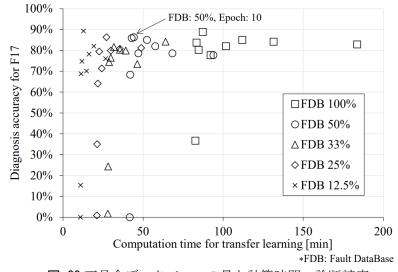


図-20 不具合データベースの量と計算時間・診断精度

Demand responseーデマンドレスポンス

Behavior of power demand and indoor thermal environment – 電力デマンドと室内温熱環境の挙動算出

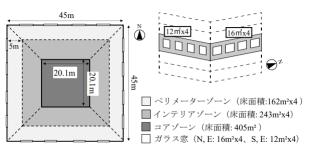
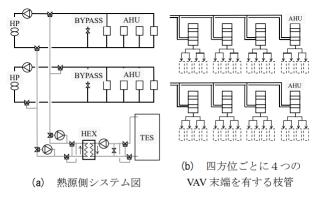


図-1 基準階の平面図と立面図(南東)



注 (b)の上下の系統はペリメータ―ゾーンと インテリアゾーンに対応する。

図-2 空調システム図

- 建物、水側・空気側空調システムのシミュレーションを構築
- DRによる電力デマンドや室温の変化を算出・分析
 - ✓ 熱源停止や室温設定変更によるDRは制御の安定性や室温に影響を与える
 - ✓ DR終了直後の電力デマンドの反動も確認された
 - ✓ 総消費電力量は増加するため、トレードオフの関係を考慮することが肝要
 - ✓ 熱負荷によってDR効果は変化するため、負荷予測技術も重要

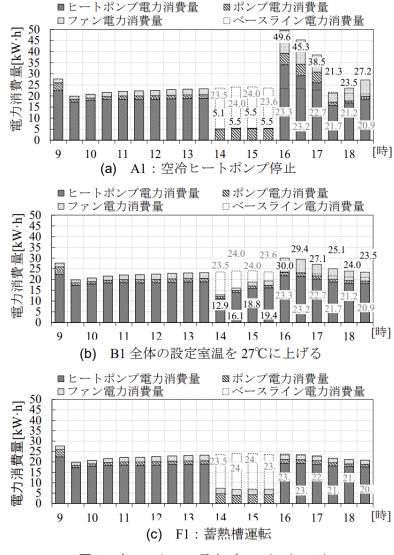
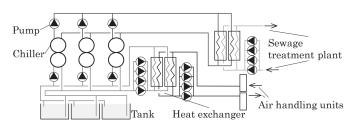


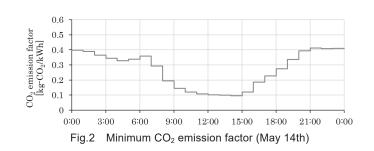
図-7 各 DR ケース電力デマンド (17 日)

Demand responseーデマンドレスポンス

Low carbon emission control of chiller using model predictive control – モデル予測制御による熱源機器の低炭素制御







- 蓄熱槽を有する熱源システムのシステムのシミュレーション を構築
- モデル予測制御を適用し、CO2排出量が最小となるよう冷凍機の運転を最適化
 - ✓ 1時間ごとの動的CO2排出係数を利用
 - ✓ 残蓄熱量が不足して供給温度が上昇しないような制約を付与
 - ✓ 雨の日などCO2排出係数が高い日は、前日に満蓄熱にする挙動を確認
 - ✓ システムシミュレーションをMPCの中で利用する際は最適値の探索に時間を要する。そのため、制御変数の工夫が必要(今回は冷凍機の発停のみ)

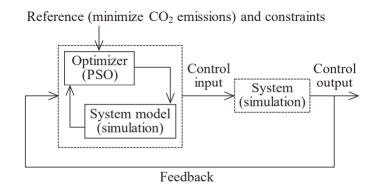
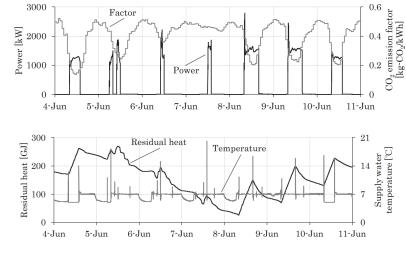


Fig.8 Structure of the calculation



System behavior by the MPC